



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
☎:059-331-1670
fax:059-332-0733

掲示板法話

人生の危機管理は 仏法にあり

自らを灯とせよ 法を灯とせよ

新年早々、能登半島地震、日航機と海上保安庁の飛行機衝突炎上事故とは、驚きましたね。地震の死者、安否不明者が相当な数に上るのは、誠に悲しいことです。心より哀悼の誠を捧げたいと思います。

羽田での事故機乗客が火の回る機内からよくぞ全員無事に脱出されたことだと思えます。乗務員の方々の日頃の訓練の賜物だと内外から称賛されています。危機感を以て常にリスク（危険）対応の力を養う大切さを知らされます。これを我々の人生に当てはめて、リスクを「苦しみ」と読み換えると、「人生は苦なり」という仏教、お釈迦さまの教えの出発点がここにあるのだと気づかされます。四苦八苦のうち四苦は生老病死、後4つ（愛別離苦、怨憎会苦、求不得苦、五蘊盛苦）を合わせて八苦ですが、ここでは根本的な苦しみという四苦のみに限定します。

訳ではないぞ、目のよく見えるうちによく勉強しないと後悔するぞ、という若い人たちへの戒めだと気づいて欲しいですね。病気になる苦しみ、とは健康な人には無関係と思うかもしれないが、我々は生きていく限り何らかの病にかかると可能性があり、逃げたりごまかしたりせずにわが身に引き受けていかねばなりません。死の苦しみ、これは生と死は裏表の関係にあり、死の可能性をみんな、年齢に変わりなく抱いている。だから、死の苦しみを超えて仏の命に生まれ変わる道を賜り、頂きたいのちを悔いなく生きることが大切になるのです。さて、生苦とはどう考えればいいのか？人間として生まれてきたから、老病死の苦悩がつきまとうのであり、「全ては苦である」「一切皆苦」を超克する道を釈尊は求め、伝道の旅を続けられました。釈尊八十歳、別れを悲しむ仏弟子たちに、「自らを灯とせよ。他を灯とせず、法を灯とせよ。法こそ全て



☆行事ご案内☆

2月例会:2月18日(日)午前8時半原則第3日曜朝

『春季永代経』 講師:加藤学師

3月16(土)・17(日) 両日共午後1時半

但し:お経開き16日午前10時半(招待者)

3月13日午前午後「三重組十三日講」 法林寺様

3月20日午前9時「三全仏教婦人会総会」光念寺様

一縁会テレホン法話 週替わりで聞ける3分法話

1/15~21住職、1/22~28坊守、1/29~2/4若院、1週間毎交替

3週連続で善正寺が担当。TEL059-354-1454へ電話を下さい

40年続く『一縁会』(三重組5か寺)20冊目の新刊本

「お念仏が『愛しているよ』と聞こえる」(自照社)が新年発売中

4月20日(土)午後1時三全仏婦主催 降誕会&『初参式』の赤ちゃん・幼児大募集!参加費千円、数珠・写真・冊子等進呈

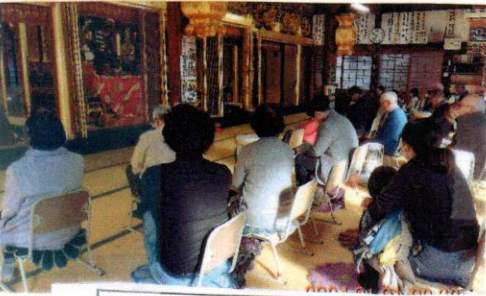
新法縁廟:お骨が自宅で眠っている方、遠慮なくご相談下さい。境内に新法縁廟を建立。費用は個別納骨堂の半分。

善正寺ホームページ三重善正寺で検索、過去18年分の寺報閲覧可能、毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評開設15年6ヶ月42万6千訪問、お悩み相談可、即返信

新納骨堂:後継者の無い方、墓でお困りの方ご相談下さい

法事場所でお困りの方:本堂使用可、日時を寺に相談下さい

夕方5時の鐘撞:年中無休、地域の子供達に開放、誰でもOK



☆ 写真アラカルト ☆



除夜の鐘、元旦会
法縁廟除幕式等



善正寺
ホームページ



住職と坊守の
つれづれ日記

のよるべなり」と最後に説かれました。人生の危機管理は仏法にあり、です。苦を乗り越える道を求め、聞かねばなりません。

坊守スケッチ

年賀状とお寺の現状

あなたは今年何枚年賀状が届きましたか？また何枚の年賀状を出されましたか？元旦に相手を思い浮かべながら読む年賀状は、年の初めの一歩の楽しみです。日頃のご無沙汰を詫び、自分がどれだけ多くの人に支えられてきたかを振り返ります。

2024年用の年賀葉書は、14億4千万枚発行されました。最多数は2003年の44億6千万枚で、この21年間で約30億枚減少しています。

近年高齢者の間で、「年賀状じまい」が増えています。「今年限りで」という文面を見ると、全てのご縁が断ち切れたようで寂しくなります。

年賀状が減少した要因は、企業の虚礼廃止もありますが、一番の原因は2008年にスマホの進化と普及で、容易に写真も送信できるようになったからです。Lineを使えば、仲間や家族間で簡単に情報交換できる時代になりました。

一方、お寺の現状も年賀状の推移と似ています。

都会では引き取り手のない遺骨が急増しています。生前家族や社会の誰とも繋がらず、孤独な人生を送る人が増え、行政では無縁遺骨を保管する場所に困っています。遺骨が誰にも引き取られなくなると、子孫や祖先との縦のご縁が切れれます。故人は社会という



横系の縁を切ったまま人生を送り、縦糸までも切って亡くなります。まさしく『無縁社会』の到来です。

本来お寺の役目は、横糸と縦糸のご縁を結ぶことではないでしょうか？葬儀こそ人間の縁を、縦にも横にも結ぶ重要な儀礼です。

近年それが価格競争の業者任せになっていきます。

年賀状のみならず寺も、風向きは変えられないけれども、社会や時代の風の変化に合わせて進化しなければなりません。お寺に参られる人だけが仏法を聞けるのではなく、現在困窮している人々に寄り添いながら、新しい手法で仏法の魅力を伝える努力をしなければならぬと痛感しました。

お悔み申し上げます

勤欄(84歳) 12月14日 小杉

谷口英子様(93歳) 12月26日 十志町

カンパありがとうございます

栗本洋子様・加藤正人様・伴野節子様・富田和代様・浜田しげ子様・矢田たず様・TS様・伊藤鈴子様・柴田美津代様他より頂戴しました。感謝！

ホントニユース

一縁会テレホン法話 1/15 住職

1/22 坊守・1/29 若院と善

正寺メンバーが週替わりで3週連続担当。20冊目の新刊本『お念仏が愛しているよと聞こえる』好評発売中。

若坊守のごこと日記 No.108

大晦日の除夜の鐘で、私は今まで子供と床の中で聞いていました。しかし夫が風邪気味なので、私と交替しました。除夜の鐘に参加するのは、長男が誕生して以来12年ぶりのことです。

一番乗りは開始1時間以上前に車で来たご夫婦。続いて書道教室の教え子やご近所さんが撞き始めました。

その音を聞いて続々と人が集まりました。四家族が集合したご一家や、遠方から帰省した息子さん夫婦とお孫さんと来た方、長男の同級生一家など、大晦日ならではの賑やかさです。

気付けば百八つは超えていました。私は「皆様に明るい新年が訪れますように！」と言葉をかけて、お礼にお菓子をお渡ししました。

ところが翌日、能登半島地震、航空機事故と日本は緊迫の年明けとなり、昨夜の平穏さが一転して嘘のようになりました。しかしどんな時でも苦難を乗り越える人間の力を信じて、私達は被災された皆様にできる限りの支援をしたいと思えます。



※4月20日(土)1時「初参式」赤ちゃん・幼児募集。三全仏婦主催、千円

俳壇

地面ゆれただ立尽くす元旦や 釋妙水

幼子の微笑ましき字賀状かな

柚子風呂に入れてと三個友配る

京紅の合わせ蛤初土産 釋樂邦

晴れやかに禰宜の木杵やお元日

帰省子に七草粥の湯気やさし

退職日屋上からの花吹雪 釋住安

道を這う蠟燭そつと枝にのせ

去年よりずつと少ない年賀状

戦争の記事に包まるさつま芋 YM

晴着の娘袂絡めるエスカレーター TS

つくばいにメジロ来たりて初点前

寒牡丹やさしく育てた藁の家

木琴のマレット固し冬の朝 釋秀龍

小袋のチョコを数えるクリスマス

聖樹ひとつぼつりと立つ学童所

年賀状今年限りと友の断 釋清風

幼子の顔もほころぶお年玉

大揺れにお屠蘇気分の吹き飛べり

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」362号をお届けします。◇新年早々、大地震、飛行機衝突炎上事故とは驚き、悲しみ一杯、「火宅無常の世」だと痛感させられました。他人事と思えず、日々大切に生きねばなりません。◇終活を急ぐ人たちが続々だが、人間関係を閉じるのが終活なのか？真の「生まれ甲斐」に目覚め、諸共に往生浄土の道を歩ませて頂くのが本当の終活です。◇今年もどうぞ本紙を「愛読下さるよう念じつつ。合掌。

元旦の能登地震と翌日の羽田飛行機炎上事故には驚きま
した。一度にお正月気分は吹っ飛んでテレビでは悲惨なニュース
ばかり。被災地の皆様にお見舞い申し上げます。復旧作業に当た
られる方には感謝申し上げます。現地でお手伝いのでき
ない私達はスマホから支援募金をしました。支援は受け
取る人の為ではなく、させて頂く側に人徳があります。日本
には、「おたがいさま」という言葉があるように、災害がいつ
我が身に襲いかかっても不思議ではありません。そんな時
に寄り添う人がいると思っただけでも、生きる勇氣が湧い
てきます。「一寸先は闇」の時代、いつ誰の身にどんな苦難
が襲いかかろうとも「一人じゃない。大丈夫」と思っただけで
も心が和らぎます。ところで境内地に新しく「善正寺
法縁廟」を建立し、元旦に披露しました。近年は家族の形
態が多様化してお墓の継承が難しくなってきました。数年
前にロッカ式の個別「納骨堂」を新設しました。しかし法縁廟
は個別ではなく、石室内の棚に骨壺を並べて外側に法名板
をはめ込む方式で費用は納骨堂の半分です。関心のある方
お墓でお困りの方は、一度寺へご相談下さい。住職は目の手
術で一月下旬大学病院へ入院して自内障手術をします。
その為2月号を早めに作成しました。しばらくご不便をお
かけしますが、寺族一丸となって法務に当たります。春から申し
になる孫が一人前になるまで頑張ると申し出ていますので、
よろしくご理解賜りますようお願い申し上げます。今年
も善正寺たよりとブログをご愛読下さいませ。合掌

令和六年二月

善正寺坊守様

合掌